

古写真や絵画で見る 仙台歴史散策

芭蕉の辻・初売

仙台市博物館 学芸員 佐々木徹

第1回

仙台藩伊達家六十二万石の城下町として栄えた仙台。今月号からは、今に残される古写真や絵画から、往時の仙台の姿を紹介していきます。

城下の経済の中心 芭蕉の辻

芭蕉の辻は、江戸時代の仙台城下の中心です。

仙台城下は、初代藩主伊達政宗の時代から、幹線道路である大町通と奥州街道に沿って町場が置かれ、商売が行われていました。その二つの道の交差点が芭蕉の辻です。幕府や藩の主要な禁令を掲げる高札場も設けられ、「札の辻」とも呼ばれていました。そのため



奥州仙台名所尽集 芭蕉の辻 (江戸時代後期 仙台市博物館蔵) ※3月10日まで仙台市博物館(常設展)で展示中

人通りが多く、藩外にも聞こえた繁華な場所でもありました。

その名の由来は、古くは芭蕉が植えられていた場所であるからとも、芭蕉という虚無僧が住んだためともいわれています。

芭蕉の辻の最大の特徴は、辻の四隅に建つ大きな建物です。十九世紀初頭になると、絵図に楼閣風の二階建ての建物が描かれはじめ、瓦葺きの屋根には竜や唐獅子、兔が飾られていました。茅葺きの平屋が多い城下町のなかで非常に目立ち、城下の名所・シンボルとなりました。火災で焼失した際には、藩が再建の資金や材木を援助することもありました。

城下では、毎年十二月二十五日頃(旧暦)から数日間、一年で最もにぎわう「歳の市」が芭蕉の辻を中心に開かれました。正月の調度を売るため、道路の中央を流れる水路(四ツ谷用水)の上に仮設の店舗が設けられ、城下の内外から集まった人びとで混雑をきわめたといわれています。

仙台の初売

現在、新年の仙台の風物詩となっている一月二日の初売は、いつ頃から始



大町四丁目にあった茶舗の初売 大正5年(1916)1月2日午後撮影 個人蔵

まったのか明確ではありませんが、江戸時代後期には定着していたようです。歳の市に比べて資料が少ないですが、嘉永二年(一八四九)の『仙台中行事大意』によれば、値段の多少にかかわらず必ず景品をつけるのが仙台商人の習いとされ、城下の人びとは午前二時頃から出掛け、門戸をたたいて店を開かせ買い初めた、と記されています。戊辰戦争での仙台藩の敗北や廃藩置県などによって、仙台も激動の時代を迎えますが、初売(買い初め)は前述の歳の市とともに明治時代以降も続けられました。明治・大正時代の初売は午前四時頃から行われ、引き続き景品も出されて商店街には多くの客が詰めかけたといわれています。

昭和二十年(一九四五)の仙台空襲によって市街地が廃墟と化した後は、すぐに復活した歳の市とは対照的に初売はしばらく再開できず、昭和二十五年頃ようやく行われたようです。この時は、あまりのにぎわいで東一番丁の商店街が人であふれ、藤崎・三越といったデパートでは何度も入館制限をするほどであったといわれています。

旬の常設展2018-2019 冬 「仙台藩五代藩主・伊達吉村」ほか 12月4日(火)～3月10日(日)

季節によって内容が変わる仙台市博物館の常設展は、訪れるたびに新しい発見があります。

冬の展示では「仙台藩中興の名君」と言われる五代藩主・伊達吉村に関する資料のほか、上記記事で紹介した「芭蕉の辻」を描いた絵や、江戸時代の仙台の城下町を描いた絵図などをご覧ください。ぜひご来館ください。

【常設展観覧】一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円) ※30名以上の団体は()内料金となります。このほか各種割引があります。

【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)



文久二年仙台城下絵図 文久二年(1862) 仙台市博物館蔵

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

TEL:022-225-3074 ▶1月の休館日:12月28日(金)～1月4日(金)、月曜(14日は開館)、15日(火)

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku ▶博物館HP

検索